



地域発:がん対策市民協働プログラム

～地域から生まれる好事例～

日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センターは、市民の手による地域発のがん対策プロジェクトを支援する取り組みとして、2009年7月から「地域発:がん対策市民協働プログラム」を行ってきました。目的は、がんによる死亡率を減らすことと、好事例を各地に広げることです。支援の対象となったプロジェクトでは、市民（患者）が企画・運営し、医療提供者や行政を巻き込みながら行われています。



これまでのプロジェクト活動の中から、お互いの経験と知見を共有し合うことを目的に、2011年10月2日に総括会を開催し、「市民プロジェクトを推進する3カ条」にまとめました。総括会には、2011年プロジェクトのリーダー（次ページ参照）と、当プログラムの審査委員（江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授 隈本邦彦さん、福岡市医師会成人病センター院長 信友浩一さん、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授 萩原なつ子さん、北海道大学大学院地域システム科学講座教授 宮内泰介さん、がん政策情報センター長 埴岡健一）が参加しました。

市民プロジェクトを推進する3カ条

I. 他の関係者と連携するために

- 1) 市民主体プロジェクトとしてアイデンティティ（独自性）を確立して出発しよう
- 2) 動かしたいターゲットを決めて、緩やかな関係を作れるように働きかけよう

大阪プロジェクトは、日本一充実しているといわれる大阪府のがん情報を、患者目線でわかりやすく公開することが目的です。そこで、取り組みは、大阪府がん診療連携協議会「がん診療情報の提供のあり方検討部会」に、患者関係者としてオブザーバー参加することから始まりました。その後、大阪府成人病センターのウェブサイトにおいて全57拠点病院の診療情報が公開されたことを皮切りに、より利用者のニーズに応えるために「大阪がんええナビ制作委員会」を患者会と医療提供者で設立し、11年3月に総合がん情報サイト「大阪がんええナビ」を公開しました。

また、行政には、府の公式サイトに準ずる位置付けでリンクの設置やイベントの後援をしてもらっています。行政との連携はプロジェクトを進めるうえで欠かせない要素で、継続した活動により信頼を得たことで、行政からの支援をもらえたことがポイントです。立教大学教授の萩原さんは「緩やかな繋がりを作っていくこと（ネットワーク：結び目作り）で、お互いにとって居心地のよい、長く続く関係になることが理想です。そのために、ターゲット（対象者）を決めて、一つずつ結び目を作っていきます」と連携のポイントを語りました。



II. モチベーションを維持するために

- 1) 「楽しい」という感覚を持てる仕組みを作ろう
- 2) 適度な人数でチームを作ろう

北海道プロジェクトでは、がん予防検定を各地で行いながら、参加者からの評価を聞いていく中で、プロジェクトの意義を強く感じるようになっていきます。検定の参加者を増やし、着実に成果を積み重ねたことがプロジェクトのやりがい、楽しさを実感させた例といえます。

宮城プロジェクトでは、患者、看護師、専門家のお互いの強みを生かして分担することで、高いモチベーションを維持しました。江戸川大学教授の隈本さんはチームの規模について「お互いの個性がわかりあえる、顔の見える関係のメンバー数であることが大切です。チームが大きいと意見がまとまりにくく、モチベーションが低下することもあります。反対にチームが小さいと個人の負担が大きく、楽しむ余裕が失われます」と説明しました。

III. 事業を継続するために

- 1) サービスによって恩恵を受ける人がお金を払う仕組みを考えよう
- 2) プロジェクトの最適化を、バランス・スコアカードで考えよう

高知プロジェクトでは「心のケア支援相談員」を育成していますが、育成には時間がかかります。はじめのうちは周囲の方々に理解してもらいにくく、期待していた効果が見られない場合もありました。しかしながら、患者さんから実際に心のケアの依頼を受けるようになって、実績を積み重ねていくうちに医療機関や行政との連携が進みました。継続した運営をするため、現在は、患者さんから相談料をもらうシステムも導入しています。今後は、産官学協働のかたちを目指しながら、委託金や助成金により継続します。北海道大学教授の宮内さんは「活動を続けていると苦勞も多く、浮き沈みもありますが、続けることに意味があることを再認識することが大切です」と、前向きに続けること、プラスの面を見て協働することの重要性を述べました。

最後に、福岡市医師会成人病センター院長の信友さんは、プロジェクトの管理方法を戦略的経営手法のひとつであるバランススコアカードを用いてまとめました。「①資金と必要経費②ターゲット③活動プロセス④メンバーの学習——の4つの視点に目を向けて目標管理することで、プロジェクトを最適化すると良いでしょう」。



2011年プロジェクトの紹介

がん予防検定を用いた地域ぐるみがん予防プロジェクト

北見NPOサポートセンター
理事長 谷井貞夫さん



■参加型ワークショップでがん予防

がん予防検定には3つの特徴があります。①ワークショップ形式②回答を分析するIT機器③医療専門家による解説——です。参加者は専門家が出题するクイズに答えるだけで、がん予防に関する知識が深まると好評で、実際に学習効果も高いことが認められています。また、町内会や企業と連携しやすく、健康セミナーの新たな形として期待されています。

今後は、簡易版の作成も含めて、教材と司会の手法をマニュアル化して、関心を持った団体が実施できることを目指します。

患者発 宮城版退院時サポートプロジェクト

婦人科がん患者会「カトレアの森」代表 郷内淳子さん



■安心して退院できる仕組み

退院後の患者さんが、安心して療養できるように「退院時サポートキット（4冊セット）」を作成し、がん拠点病院の協力のもと、配布しました。実際に受け取った患者さんへのアンケート結果によると、約8割が役に立つと好評でした。また、病院では「退院支援システム研修会」を行い、病院へのサポートも行ってきました。

しかしながら、2011年3月11日の大震災で、宮城県の医療機関は大きな影響を受けました。最新の医療情報に更新した改訂版を10月に発行し、配布を再開する予定です。

府民へ届け！大阪ならではのがん情報

NPO法人がんとともに生きる会事務局長 濱本満紀さん



■府民に役立つ情報を公開

2011年3月に、患者目線の総合的ながん情報サイト「大阪がんええナビ」を公開しました。このサイトは、がんについて「調べよう」「聞こう」、がんを「知っておこう」「考えよう」の4つのコンセプトで構成し、がん患者さんの状況（がんの種類、進行状態など）に応じて、ナビゲートしていきます。

12月3日には総合がん情報提供・啓発イベント『なんでもがんで情報力！展』を開催します。広く一般来場者に、がんの予防・検診・治療や患者家族支援などの良い情報の獲得・活用の仕方を楽しんで学んでもらうことを目指します。

高知発 がん患者支援プロジェクト

高知がん患者会一喜会理事 安岡佑莉子さん



■患者さんの心に寄り添う

患者さんや家族の支援者として、スピリチュアルカウンセリング講座を受けた「心のケア支援相談員」を28人育成しました。この相談員は実際に患者サロンや在宅、病院で活動をはじめています。また、スピリチュアル講座に加え、“がん情報”と“在宅介護ボランティア”に関する定期講座も開催し、相談員のスキルを向上させる取り組みも行われています。

患者さんの心の痛みに寄り添うことは、相談員にも大きな負担がかかります。今後は、相談員が継続して活動できるように、相談員の心の支援にも注力していく予定です。

これまでのプロジェクト

この3年間で、合計87プロジェクトの応募があり、選考の結果、全国13都道府県から合計17プロジェクトとの協働への支援が行われました。主に(1)がん医療の均てん化(2)がんの早期発見(3)がんの予防——の3つの観点で、取り組まれました。

(1) がん医療の均てん化

患者発 宮城版退院時サポートプログラム(宮城県)、山梨がん医療の輪プロジェクト(山梨県)、がん患者支援プログラムの普及と展開、がん診断時からのピアサポート モデル事業(愛知県)、ICサポーターの育成(岐阜県)、府民へ届け！大阪ならではのがん情報(大阪府)、「家族必携」の作成と「家族塾」の開催(愛媛県)、高知発 がん患者支援プロジェクト(高知県)、「がんかわら版」出前屋(沖縄県)、働き世代のがん患者 体験者に対する就労 雇用支援プロジェクト(全国)

(2) がんの早期発見

子育て世代の女性特有がん 検診受診率向上プロジェクト(静岡県)、がん検診受診率向上大作戦(滋賀県)、お友達と「話そう！受けよう！」乳がん検診(大阪府)、みんなで考える乳がんプロジェクト(広島県)、Oh!Rock Music Lovers ~音楽を通じて伝えたいことがある~

(3) がんの予防

がん予防検定を用いた地域ぐるみ がん予防プロジェクト(北海道)、「がん予防クーポン」導入に向けた参加型ワークショップの実施(東京)

がんと向き合うみんなのチカラ

3年間で3万人の命を救おう

地域発がん対策市民協働プログラム



3年間の取り組みを総括して

今回の3カ条を、プロジェクトの実践者として、今後も役立っていただくと同時に、これから始める人に対しては、支援者として伝えていただきたいと思えます。市民プロジェクトがきっかけになり、社会的な発展が続いていくことを期待しています。
審査委員長 信友浩一

この取り組みは、がん対策は地域からの草の根的活動が大きな効果をもたらすと期待して始めました。3年間を振り返ると、まさにその通りで、国や都道府県などのがん対策に大きな影響をもたらしています。ご協力いただいた多くの方に深くお礼申し上げます。
がん政策情報センター長 樋岡健一

本事業を実施するにあたり、多くの方にご協力をいただきました。ここに、心より感謝の意を表します。